

ハーモニー

Harmony

第90号 2023年2月20日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@as.bunken.co.jp

目次

第30回学術集会(ハイブリッド開催)のご報告とお礼…1	
第30回学術集会を振り返って……………2	
参加者の声(三名)……………3	
学会設立30周年記念事業について……………4	
第31回学術集会(ハイブリッド学会)のご案内(第1報)…4	
【会員交流④】大学教員に着任して……………5	
トピックス「こども基本法」の施行について…6	
○デジタルテキスト「生徒指導提要(改訂版)」の公表	

○調査研究協力者会議の「議論の取りまとめ」の公表	
学術委員会からの報告	
—研究助成金研究および投稿奨励研究について—…7	
理事会議事(報告)……………7	
定時総会議事(報告)……………8	
事務局からのお知らせ……………8	
編集後記……………8	

第30回学術集会(ハイブリッド開催) のご報告とお礼

学会長 山崎隆恵(北海道教育大学)

第30回学術集会は、学会設立30周年記念集会と併せて、「職制80周年を経た今、養護教諭の実践の可視化について探究する」をメインテーマに、2022年12月3日～4日に札幌市教育文化会館にて開催いたしました。実行委員会発足当初は新型コロナウイルス感染症の流行が収まるという期待のもとに、3年ぶりの対面開催の準備をしていましたが、収まる見通しが持てず、開催1年前に対面とオンラインのハイブリッド開催を決定しました。コロナ禍で、かつ雪の降り始めた札幌でしたが、会場146名、オンライン164名と多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。また、ボランティア学生たちが想像以上の力を発揮し、それ以外の学生も合わせると69名の参加があり(含む遠隔)、若者の研究志向と今後の実践力向上に期待が持てました。

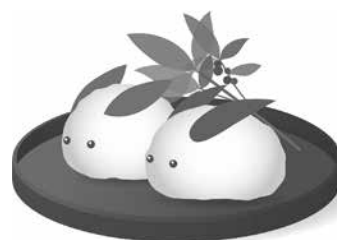
シンポジウムでは、教職大学院教員、小学校学級担任、養護教諭、指導主事という立場から実践の可視化に関わるとご提言をいただきました。会場やオンライン参加者も交えての討論から、可視化の段階や思い描くものに差異があることが伺えましたが、自分の視点が広がったこと、見えないものを深化して考えるための可視化に意味がある

等のアンケート記述もあり、養護実践を考えるための一つの礎となったと考え、今後に期待感を抱く思いです。

ワークショップは三会場設け、可視化に通じるテーマをもとに、グループワークを行いました。講師の先生方にはハイブリッドに向け綿密な準備をしていただきました。

様々な用意にもかかわらず、初日に音声トラブルが重なりましたことを心よりお詫び申し上げます。開催後のオンデマンド配信では一部に再録音の必要が生じましたが、関係の方々のご協力で提供に至りました。お礼申し上げます。

コロナが収束しても、ハイブリッドであれば全国から参加でき広く学びが浸透するとの言葉をいただき、今後の学術集会の開催形式の参考となる学会であったと考えます。開催に関わっていただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます、特に、運営上変更の多い状況を実行委員が一丸となり乗り越えていただいたことに重ねて感謝申し上げます。



第30回学術集會を振り返って

事務局長 古屋淳子(札幌市立札幌小学校)

今回の学術集會の実行委員は、9名中8名が現職養護教諭、1名SCという構成でした。自分自身が本学会について何かと不勉強な中、記念すべき第30回という節目に山崎学会長のもとで運営をできたことは、大変ありがたく光栄なことでした。あたふたすることばかりだったのですが、理事長はじめ理事の皆様方にもたくさんのお力添えをいただきましたことを、実行委員一同心よりお礼申し上げます。

参加者アンケートから、多くの方に良かったとのご意見をいただいたものの、当日起った音声のトラブルにつきましては大きな反省点が残りました。発表者やオンライン参加者の皆様方には大変ご不便やご心配をおかけいたしました。改めてお詫び申し上げるとともに、オンデマンド配信のために再度収録し直す等のご協力をいただき大変感謝しております。原因についての分析は、次回に引き継いでいきたいと思っております。

今回の運営を通し、多くの出逢いがありました。とても忙しいであろう中で温かいお言葉や笑顔をくださる先生方、意欲に燃える若い先生方や学生の姿、学ぶ姿勢を続ける先生方からは、年齢は関係なく、すべては自分の意識次第なのだと思いを引き締めることができました。共通して養護教諭への熱い想いを皆様から感じ、自分自身が初任の頃、一生懸命生徒と向き合い、ご指導いただきながら本学会で発表した時を思い出すことができました。このような出逢いのきっかけをくださった大学時代の恩師である後藤先生に、心より深謝申し上げます。

<学術集會アンケートの結果>

ご協力をありがとうございました。WEBと紙面を合わせて83人からご回答をいただきました。貴重なご意見を抜粋してご報告いたします。

1. 参加方法について

オンライン41人、会場34人、その他(併用等)8人

2. 会員の種別

会員:57人、会員外:19人、学生:7人

3. 住まいについて

北海道 25人、中部 16人、関東 16人、近畿 11人、中国・四国 6人、東北 5人、九州 4人

4. 本学術集會を知った手段

いつも参加している 35人、知人の紹介 23人、ハーモニ 23人、学会 HP 20人他

5. 参加した感想

大変良かった 38人、良かった 41人、どちらともいえない 3人、良くなかった 1人

6. 興味を持った内容(複数回答)

一般口演 59人、シンポジウム 58人、ランチョンセミナー 46人、学会長基調講演 44人、ワークショップ 37人、

特別講演 36人、ポスター発表 15人

7. シンポジウムについて

①シンポジストからのご提言の内容

大変良かった 38人、良かった 41人、どちらともいえない 3人、良くなかった 1人

・養成、現職、担任、行政の異なる立場のシンポジストからの可視化についての話が聞けて良かった。

②シンポジウムの運営

大変良かった 16人、良かった 60人、どちらともいえない 7人

・限られた時間で縮まった感じはした。

・論点の共有をパネリストも参加者も必要だった。

8. シンポジウム以外の内容について

・特別講演は大変興味深い内容だった。養護教諭応援団の存在を知った気持ちである。

・学会長講演は、山崎先生が現職のスタートから研究的視点をもち仕事に取り組まれていたことに裏付けされた内容で、現職の研究の取り組み方を教えていただいた。

・ランチョンセミナーの頭痛の話がとても勉強になった。また、ワークショップも非常に学びになった。ただ、時間がタイトだったため、もっと時間が欲しかったなと思った。

・今回、民間企業として参加させていただいたが、子どもやその家族のために「チーム学校」一丸となって、聞き取りの工夫から論理的な分析、効果的な伝え方などの対応をされていたことを学ばせていただいた。

・養護教諭として、丁寧に着実に自分の成すことを一つ一つ積み上げていこうと思った。

9. その他

・学生スタッフの方々がてきぱきと動き、頼もしいと思った。

・Zoomに慣れておらず、ブレイクアウトルームの移動の際には大変ご迷惑をおかけした。忙しい中でも丁寧に対応してくださり、嬉しかった。

・口頭発表に関して、事前のZoom接続確認ができたこと、当日早めに会場で接続チェックの対応をして下さったりしたことが、オンラインで発表した者としては非常にありがたく安心して臨めた。

・今回の基調講演やシンポジウム、ポスター発表等を通じて、複数・男性・幼稚園等の養護教諭配置の課題に関して改めて関心を持ち、今後も他の研究と合わせて取り組んでいきたいと感じた。

・コロナが収束しても、ハイブリッドであれば、全国の養護教諭が参加でき、広く学びの浸透、どの年代でも資質向上に繋がると思う。

・対面とオンラインの併用は、とても良かった。

・久しぶりに会場参加をさせていただき、会って伝えることの大切さを改めて感じた。

- ・オンラインで1日目に声が聞こえなかったのが大変残念だった。
- ・交流会楽しかった。
- ・オンデマンド配信もあったので、復習もかねてじっくり参加することができ満足している。

参加者の声

——学術集会に参加して——

郷司青海（札幌市立栄西小学校）

1年半ほど前から、第30回学術集会に向けて準備を進めてまいりましたが、道のりは決して楽なものではありませんでした。私は、ハイブリッド開催に向けた準備のお手伝いをさせていただきましたが、毎日触れているはずの電子機器の操作に四苦八苦し、自分の知識不足を何度痛感したか分かりません。当日も、音声などの不備があり、参加してくださった皆様にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。そのような中でも、参加の選択肢が広がったことによる喜びの声も頂戴し、とても嬉しく思っています。

今回の学術集会を通して、共にお仕事させていただいた先生方や、全国からお集まりいただいた方々のバイタリティを肌で感じることができました。職制80年という歴史の中で、たくさんの方が養護教諭として、あるいは養護教諭と共に仕事をする仲間として、試行錯誤しながら活躍されてきたこと、その歴史があるからこそ今の養護教諭としての立場があることに気づかされました。

日本養護教諭教育学会への参加は初めてでしたが、養護教諭や子どもたちの未来を見据えて活動をされている先生方がいらっしゃることに、全国から集まられた先生方による活発な交流の場があるということに、心強さを感じました。それとともに、自分自身も養護教諭として子どもたちの成長を支えていくために、自己研鑽を積んでいかねばならないという思いを掻き立てられました。山崎学会長の養護教諭の職務に対する誇りと可視化という思いを受け継いでいくことができるよう、精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、第30回学術集会にご参加いただき、誠にありがとうございました。新潟で行われる第31回学術集会に向けた準備も進められていることと思っております。盛会となりますことを心よりお祈り申し上げます。

日本養護教諭教育学会 ——第30回学術集会に参加して——

佐藤美幸（新潟青陵高等学校）

日本養護教諭教育学会第30回学術集会に参加させていただきましたこと、山崎隆恵学会長をはじめ、開催に尽力された皆様に厚くお礼申し上げます。

今回の学術集会は学会設立30周年記念集会でもありましたが、新型コロナウイルスの感染が続き、ハイブリッド形式での開催となりました。行動制限のない状況での

学術集会開催でしたので、札幌に赴きたい気持ちはありましたが、感染状況からオンラインでの参加を選択しました。また、学術集会開催後もオンデマンド配信でプログラムに参加することができ、多くの学びを得る機会となりました。

学会長基調講演では、山崎先生ご自身の摂食障害の生徒たちとの関わりから、葛藤するなかで多くの気づきや学びを得られたこと、それを研究論文として可視化したことをお話されました。私は、自身の養護実践を客観的に可視化することの難しさを感じています。しかし、仲間と共同研究で研究的に実践をまとめることにより、可視化できることを提言くださいました。また、養護教諭を養成する立場となり、自身のこれまでの養護実践を学びの材料とし、学生と一緒に「行動化」と「養護教諭の行動過程」を考え、実践から得たことを教えているとお話してくださいました。学生は山崎先生の養護実践を疑似体験することで深い学びを得ているのだとうらやましく思いました。

次回の学術集会は新潟市での開催が予定されています。開催までに新型コロナウイルス感染症への柔軟な対応がさらに進むと期待されます。ぜひ来県していただき、米、海産物、酒など食事や凜とした冬の空気など新潟の魅力を感じてほしいと思っています。また、多くの方に対面で参加していただき、交流を深められることを楽しみにしています。

——「学術集会に参加して」——

小山内日和（札幌市立栄中学校）

初めて養護教諭という立場で学術集会に参加しました。全国の養護教諭の先輩方や関係者の方がお集まりになる会場で、とても緊張しました。しかし、先輩方のお話を聞くほど、こんなに心強い味方が集まる場所は他にないと強く感じました。それは、子どもの健康問題や保健教育、養護教諭の働き方など、日常の中では追究しきれない諸課題に向き合い、より良いものを模索してゆく先輩方の姿に感銘を受けたからです。私は、着任して3年という至らない経験年数ですが、学校では、養護教諭という私の立場はしっかりと尊重されています。周囲の先生方が若輩者の私の意見を大切に受け止めてくださるのは、80年の中で先輩方が作り上げてくださった歴史が、養護教諭という地位の信頼を築き、今の私たち養護教諭の学校での居場所を守ってくださっているからだと感じます。

2日間を通して印象深かったのが、先生方が「養教」ではなく「養護教諭」と、省略せずにお話されていたことです。学校で過ごす日常は目まぐるしく、ふと資料に書かれてある役割分担の表記は「養教」。つい、私も「養教」と書いてしまうことがあります。しかし、この度の学術集会に参加して「養護教諭」という、この職を尊び重んじる先輩方の姿を見て、自身の在り方について改めて振り返ることができました。

まだまだ未熟な私は、自身の対応に迷い、失敗し、落ち込む日も多くあります。けれど、先輩方が学校での職務に加えて、全国の養護教諭のために研究なさっている

と知り、「先輩方から学んだことを、もっと活かせるように頑張ろう」と気合が入りました。何より、養護教諭にはいくつかの学びのバトンがあることを知りました。そして、私自身も研鑽を重ね、いつかそのバトンを受け渡せる養護教諭を目指したいと思いました。

この度は、実りある学びの機会を頂戴しまして、本当にありがとうございました。

学会設立 30 周年記念事業について

1) 記念集会の開催

第 30 回学術集会 (2022.12.3 ~ 4、札幌市) の開催に併せて、予定どおり、「開会式・学会設立 30 周年記念式典」、「第 30 回学術集会・学会設立 30 周年記念集会共同企画の特別講演」、「学会設立 30 周年記念展示・3 分スピーチ」を行うことができました。記念式典では、ご来賓として国立大学法人北海道教育大学の蛇穴学長、北海道養護教員会の萬徳会長からご祝辞を賜りました。特別講演の大門先生は執筆期限の迫る原稿を抱えながらも会場においていただき、書籍『この歌をあなたへ』購入者にサインをしてくださいました。記念展示は広い会場が用意され、30 年間の発行物を中心とした展示を行いました。同会場において、3 分スピーチを大スクリーンで繰り返し紹介しました。これらの記念集会の様子は、写真と共に「学会設立 30 周年記念誌」でご報告いたします。

2) 記念クリアファイルの作成

学会設立 30 周年を記念して、クリアファイルを作成しました。表は第 30 回学術集会抄録集の表紙デザインに似せてチュールに囲まれた「北海道庁」とし、裏は北海道でブームになっている「雪の妖精 シマエナガ」を中央に置いて「養護教諭の職制 80 年を経た今」という言葉を記しました。第 30 回学術集会に会場参加またはオンライン参加された皆様に、抄録集と共にお渡ししましたが、会員の皆様には、「学会設立 30 周年記念誌」送付と併せて送らせていただきます。



3) 「学会設立 30 周年記念誌」の発行

記念誌発行担当・理事 外山恵子

本学会の前身である全国養護教諭教育研究会が発足したのは 1992 年のことです。以来、今は名誉会員となられた先生方をはじめとして多くの会員の皆様のご尽力で、2022 年に 30 周年を迎えることができました。そこで、本学会が歩んできた道のりや業績を振り返りつつ、今後の

養護教諭教育につなげていくために「学会設立 30 周年記念誌」を発行することにいたしました。10 年前には「学会設立 20 周年記念誌」を発行しましたので、今回は 20 年から 30 年までの 10 年間の取組を中心にまとめています。

内容は、①養護教諭の資質向上と本会への期待、②学会設立 30 周年を迎えて (名誉会員、理事・監事)、③学会のあゆみ、④学会の事業 (学術的な活動: 学術集会、学会誌、用語の解説集、演題区分、養護教諭の倫理綱領 / 研究活動支援: 研究助成金研究、投稿奨励研究 / 会員への情報提供: ハーモニ、プレコングレス、ワークショップ、パブリックコメント)、⑤学会設立 30 周年事業 (記念誌、記念集会) などで構成しています。

10 年前の記念誌編集委員長であった後藤理事長のご教示のもと、総務委員会委員である浅田理事・上原代議員・岩崎委員と共に準備を進めています。文部科学省健康教育・食育課にご執筆を依頼したり、名誉会員や理事・監事経験者の方々にご連絡をしたりして、年度末に学会誌とともに発送する予定です。最後になりましたが、ご寄稿いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

第 31 回学術集会 (ハイブリッド学会) のご案内 (第 1 報)

学会長 塚原加寿子

会員の皆様におかれましては、子どもたちの健康を守り育てる活動にご尽力されていることと拝察します。

日本養護教諭教育学会第 31 回学術集会を、新潟市にある新潟青陵大学で開催します。新型コロナウイルス感染症が感染症法上の第 5 類感染症になることが発表されましたが、オンラインの方が参加しやすいというご意見も踏まえ、ハイブリッドでの開催と致します。

メインテーマは、「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」としました。新しい時代に生きる子どもたちが、健やかに、希望を持って自分の可能性を広げていけるために、養護教諭はどのような支援をし、どのような力を発揮していくのか、皆様と一緒に考え、深めていきたいと思っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1. 期 日: 2023 年 12 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日)
2. 会 場: 新潟青陵大学 (オンライン配信も予定)

〒921-8121

新潟市中央区水道町 1 丁目 5939 番地

3. 学会長: 塚原加寿子 (新潟青陵大学)
4. メインテーマ: 「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」
5. 内 容: 学会長講演, 特別講演, 教育講演, シンポジウム, 学会助成金研究発表, 一般口演, ポスター発表, ワークショップ, プレコングレス (以上予定)

6. 特別講演：NPO 法人 ぶるすあるは
細尾ちあき氏
〈URL <https://pulusualuha.or.jp/>〉
7. 演題申込締切：後日指定
8. 参加費：会員 4,500 円 非会員 5,000 円
学生 2,000 円
抄録集のみ(送料込) 2,500 円
9. 学会事務局：新潟青陵大学 塚原研究室
E-mail：tsukahara@n-seiryu.ac.jp
10. その他
詳細は、日本養護教諭教育学会公式ホームページに
随時掲載します。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 【会員交流④】 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
大学教員に着任して

岩崎和子（関西福祉科学大学）

先日、本学においてリカレント教育・交流の場として「ホームカミングデー・養護教諭会」を開催しました。第1部では養護教諭として活躍する卒業生二人が「キャリア・ライフプランを考える」をテーマに発表しました。一人目は「初任から保健室閉鎖、2校目は大学附属学校に勤務し、現在は複数配置校。大規模校で毎日多忙である。」二人目は「小規模校の経験が多く4校目。現在は全校児童数約20名の小学校に勤務。養護教諭の職務以外の仕事も多く給食主任も担当。二人の子育てをしながら夫と家庭内の役割分担をして働いている。」という内容でした。この発表と会場をつなぐコーディネーターをさせていただいたので、「保健室に勤務できない」「小規模校に勤務するので養護教諭の職務外の仕事が多い」という難点も、見方を変えれば「職員室にいるからこそ、他の教職員の動きをみることができる」「養護教諭の職務外の仕事をやるからこそ、別の視点で学校全体をみることができる」といった利点になることを明確にして、今後のキャリアステージについて深めていきました。

7年前前に「養護教諭の職務困難感と必要としている研修」という全国調査を実施したことがあります。回答者536人のうちの困難感で最も多かった意見は「協働」(19.2%)であり、その内訳の最上位は「校内の協働」でした。必要な知識理解で最も多かったのは「個人の能力の向上」(24.3%)であり、その内訳の上位は「コミュニケーション能力」と「コーディネート力」でした。今回の発表からも、改めて現場でのキーワードは「連携・協働」「コミュニケーション」「コーディネート力」であることが明確となり、先の調査結果と一致していました。「連携・協働」を促進するためには、お互いの仕事を理解することが大切だと考えていますが、その視点を述べたところ、会場でうなずいている養護教諭の皆さんが多かったのが印象的でした。

今年度、「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」が開催され、「令和の日本

型学校教育」を担う教師の在り方に係る議論の動向並びに当面する学校保健及び食育に関する課題等を踏まえ、それらに対応するための方策等について検討が行われました。その報告書によれば、養護教諭や栄養教諭が置かれている状況について、関係者に必ずしも十分に理解されていないのではないかといった指摘があったと報告されています。

養護教諭及び栄養教諭は、「教師」とであると同時に、他の教諭等とは異なる専門性を有するとともに、その職務についても、子供たちの健康課題に対する個別的な対応を担うなど、授業における教科等の指導を日常的に行う教諭等とは異なる性格を有しています。これらのことから、養護教諭が教諭の職務内容を学ぶこと、教諭が養護教諭や栄養教諭の職務内容を学ぶことを大学や現職教育、校内研修等に位置付けていくことが極めて重要になると思います。お互いの職務内容を理解することで「連携・協働」「コミュニケーション」が深まり、養護教諭の「コーディネート力」がさらに発揮できると考えます。

現在大学教員をしています。昨年3月まで群馬県で養護教諭をしていました。大学教員になって感じたことは養護教諭としての現職の先生の疑問や悩み、職務困難感等と一緒に考えていくことが養護教諭の成長に大きく関わっていくということです。養護教諭は一人職が多いため相談相手がないとの報告もありますが、大学の仲間や地域の養護教諭等で共有することで新たな視点の発見につながります。

また、本学では「出前講座」を実施しています。地域連携やリカレント教育を目的として、学校・幼稚園などの教育機関や施設・企業などを対象に、大学教員が出前講座を行います。今年度卒業生が勤務する幼稚園で「食物アレルギー」の出前講座を実施し、食物アレルギーとは何か、アレルギーへの対応といった講義をはじめ、エピペンの使い方などの実技や、実際にシミュレーションを行いました。参加した先生方からは「アレルギー症状が出た時の対応は、他の先生方との役割分担や対応の流れ、物品がある場所の共通理解が非常に重要であることを理解しました。」と感想をいただきました。卒業生からは「着任時からアレルギーやプール等いろいろなマニュアルを作成してきましたが、私が作ったマニュアルでは役割分担が不十分であった!と気づききっかけとなり勉強になりました。また、デモンストレーションを実施していただけたので実際の動きを見通すことができました。」と感想をいただきました。

このように、養護教諭として得た専門的知見を地域連携やリカレント教育に活かすことで、養護教諭と教諭や管理職等の考えを学校全体の対応としての「連携・協働」につなぐことができます。その後オープンキャンパスで出前講座の受講生に会いましたが生き生きと活躍している姿が伺えました。園内の「コミュニケーション」を深め、「コーディネート力」を発揮して活躍されているのでしょう。

今後は、現職養護教諭とのつながりを大切に、キャ

リアの形成に貢献していきたいと思います。さらに、現職養護教諭が行なっている教育実践を科学的に言語化してエビデンスを蓄積し、学問構築につなげていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

トピックス

「子ども基本法」の施行について

理事長 後藤ひとみ

2021(令和3)年12月21日の閣議決定により、「子ども政策の新たな推進体制に関する基本方針～こどもまんなか社会を目指す子ども家庭庁の創設～」が表明されました。これを受けて、「子ども家庭庁設置法」(令和4年法律第75号)・「子ども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」(同第76号)・「子ども基本法」(同第77号)が2022(令和4)年6月15日に制定され、同年6月22日に公布されて、2023(令和5)年4月1日に施行されることになりました。

子ども家庭庁については、現在、内閣官房に「子ども家庭庁設立準備室」が置かれ、そのウェブサイトでは「常にこどもの最善の利益を第一に考え、子どもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据えて(「こどもまんなか社会」)」、こどもの視点で、子どもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、こどもの権利を保障し、子どもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しする。」という基本方針が示されています。そこで本稿では、子ども政策の基本理念とも言える「子ども基本法」について取り上げたいと思います。

子ども基本法の目的は、第1条に「日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、社会全体として子ども施策に取り組むことができるよう、子ども施策に関し、基本理念を定め、国の責務等を明らかにし、及び子ども施策の基本となる事項を定めるとともに、子ども政策推進会議を設置すること等により、子ども施策を総合的に推進すること」とあります。

日本が「児童の権利に関する条約」(1989年に第44回国連総会で採択)を1994年に批准してから28年が経ち、ようやく、上記のような理念が「基本法」として明示されたことの意義は大きく、子ども施策の今後が期待できます。その一方で、例えば教員468人が回答したこどもの権利の認知度は、「内容までよく知っている」は21.6%と少なく、「名前だけ知っている」「全く知らない」は合わせて30.0%になるという調査結果(国際NGO公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン2022年3月実施)があり、こどもの

権利に対する理解不足という課題が存在しています。

ところで、子ども基本法における「こども」については、第2条において「心身の発達の過程にある者」と定義されており、同条第2項では「子ども施策」として次の3項目が挙げられています。

- 一 新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期の各段階を経て、おとなになるまでの心身の発達の過程を通じて切れ目なく行われるこどもの健やかな成長に対する支援
- 二 子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現に資するため、就労、結婚、妊娠、出産、育児等の各段階に応じて行われる支援
- 三 家庭における養育環境その他のこどもの養育環境の整備
特に、一にある「心身の発達の過程を通じて切れ目なく行われるこどもの健やかな成長に対する支援」という部分は、本学会が定義している「養護教諭とは」の中にある「児童生徒等の発育・発達の支援を行う」ことに通じており、今後の子ども施策と養護教諭との関わりが注目されます。

なお、「子ども施策に関する大綱(こども大綱)」が、内閣総理大臣を会長とする「子ども政策推進会議」において「少子化社会対策大綱」と「子供・若者育成支援推進大綱」と「子供の貧困対策に関する大綱」を束ね一元化して作成されることから、これらが子ども施策の柱になるだろうことが推測されます。子ども基本法の施行を機に、改めて「児童の権利に関する条約」の内容を確認し、遵守することが求められます。

さらに、以下に昨年12月や今年1月に公表された2件についてお知らせします。

○デジタルテキスト「生徒指導提要(改訂版)」の公表

文部科学省は、現場の判断で行われてきた生徒指導のガイドラインとなるよう2010年に「生徒指導提要」を策定しました。それから12年が経過し、2022年12月にデジタルテキストとして活用できる「生徒指導提要(改訂版)」が公表されました。予告より数ヶ月遅れの公表となりましたが、本文中に登場する「養護教諭」という職名は8箇所から57箇所に増え、40箇所以上で学級担任やSCなどととも名列記されており、生徒指導を担うチームのメンバーという位置付けが強調されています。理事会では、改訂版(案)の内容を分析し課題と思われる点を整理しましたので、学会誌等で会員の皆様にお伝えする予定です。

○調査研究協力者会議の「議論の取りまとめ」の公表

ハーモニー第89号(昨年11月8日発行)で解説しました「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」による『議論の整理』が、2023(令和5)年1月17日付けで最終的に『議論の取りまとめ』として公表されました。14ページであった『議論の整理』部分は15ページとなり、「表4 公立学校における教員採用試験の実施状況(過去5年間)」や「表5 任用・配置の状況(令和4年5月現在)」のデータが更新され、「求めら

れる役割(職務の範囲)の明確化」において栄養教諭に関する記述の加筆修正が行われました。養護教諭については、職務である「健康相談」が「健康相談及び保健指導」に修正され、その理由として学校保健安全法第8条の健康相談と第9条の保健指導の関連が説明されています。

今回の『議論の取りまとめ』には複数の別添資料や参考資料があり、中でも別添1「養護教諭及び栄養教諭に求められる役割(職務の範囲)の明確化に向けて」では、養護教諭に担うことが求められる職務として10項目が掲げられ説明されています。これらの内容をふまえて、今後、国(文部科学省)は早期に標準職務を明確化し、各教育委員会等には当該地域の養護教諭や栄養教諭の職務内容を定めてもらい、その遂行のために求められる資質能力の明確化や環境の整備、研修の充実を期待したいと述べています。今時の調査研究協力者会議の設置背景には、「令和の日本型学校教育の構築」や「働き方改革の推進」等の施策がかかっています。これからの養護教諭の養成・採用・研修等の在り方について本会なりの検討が必要と考えます。

学術委員会からの報告

一 研究助成金研究および投稿奨励研究について一

学術担当常任理事 鈴木裕子

2023年度の研究助成金研究につきましては、期日までに1件の応募がありました。内規に基づき理事会にて検討した結果、研究方法等に課題が考えられることから、残念ながら今回は選定を見送ることになりました。ご応募いただきありがとうございました。

次期2024年度の研究助成の申請は、本年9月10日を期限として募集を予定しています。会員の皆様にはぜひ申請に向けたご検討をお願いいたします。養護教諭教育の研究の発展につながる研究を期待しております。

投稿奨励研究は、学術集会で発表された一般演題のなかから、学会長・座長・理事の推薦により2題以内を選定し、学会誌への投稿を奨励するもので、投稿時の査読費用8,000円が免除されます。現在、第30回学術集会で発表された演題のうち2題を選定するための作業を進めております。次号にて報告いたします。

学術委員会へのお問い合わせはメールで下記までお願いします。

国土館大学文学部 鈴木裕子

メールアドレス suzukiyu@kokushikan.ac.jp

理事会議事(報告)

総務担当常任理事 大川尚子

< 2021年度第4回理事会 >

1. 日時: 2022年10月23日(日) 15:00 ~ 17:30
2. 場所: WEB会議システムにて開催

3. 出席者: 後藤ひとみ・浅田知恵・大川尚子・加藤晃子・鎌田尚子・工藤宣子・小林央美・鈴木裕子・竹鼻ゆかり・塚原加寿子・徳山美智子・外山恵子・西岡かおり・松田芳子・宮本香代子・山崎隆恵(理事)、河田史宝・古賀由紀子(監事)
(欠席者) 植田誠治

【審議事項】

- (1) 「役員旅費規程」の一部改正
- (2) 既刊学会誌の学会HP掲載および検索サイト掲載について
- (3) 第30回学術集会上における自由集会の開催について
- (4) 学会設立30周年記念事業について
 - ① 「開会式・記念式典」、「特別講演」、「情報交換会・祝賀会」の企画
 - ② 「記念展示」、「3分スピーチ」の準備
 - ③ 「記念誌」の発行企画
 - ④ 「クリアファイル」の作成について
- (5) 2023年度研究助成金研究の選定について
- (6) 名誉会員の推薦について
- (7) 第2回(2022年度)定時総会(代議員総会)の議事等について

【報告事項】

- (1) 第30回学術集会(札幌)の進捗状況について
- (2) 生徒指導提要に関する意見提出について
- (3) 学術集会后の申し送り資料等について
- (4) 事務所(国際文献社)との契約更新について
- (5) 各委員会の活動について
- (6) 第31回学術集会(新潟)の開催について
- (7) 第32回学術集会(2024年)の開催地について

< 2021年度第5回理事会 >

1. 日時: 2022年11月19日(土) 19:00 ~ 21:50
2. 場所: WEB会議システムにて開催
3. 出席者: 後藤ひとみ・浅田知恵・大川尚子・加藤晃子・鎌田尚子・工藤宣子・小林央美・鈴木裕子・徳山美智子・外山恵子・西岡かおり・松田芳子・宮本香代子・山崎隆恵(理事)、河田史宝・古賀由紀子(監事)
(欠席者) 植田誠治・竹鼻ゆかり・塚原加寿子

【審議事項】

- (1) 第30回学術集会(2022年・札幌)の開催方法について
- (2) 名誉会員の推薦
- (3) 2023年度研究助成金研究の選定
- (4) 投稿規程の一部改正
- (5) 第2回(2022年度)定時総会(代議員総会)関係
 - ① 議長(議事録署名人)の指名
 - ② 議事及び資料
 - ③ 当日の役割分担
 - ④ シンポジウムの事後アンケート
- (6) 学会設立30周年記念事業について
- (7) 「生徒指導提要」に関するWG(仮称)報告の扱い

【報告事項】

(1) 事務所 (国際文献社) との契約更新について

定時総会議事 (報告)

<第2回(2022年度)定時総会(代議員総会)>

1. 日 時: 2022年12月2日(金) 15:30~16:50
2. 場 所: 国立大学法人北海道教育大学札幌駅前サテライトでの対面とWEB会議によるハイブリッド開催
3. 出席者: 後藤ひとみ・上原美子・加藤晃子・鈴木裕子・外山恵子・山崎隆恵 監事: 河田史宝
(WEBにて出席) 浅田知恵・荒木田美智子・石田妙美・大川尚子・大沼久美子・籠谷 恵・鎌田尚子・上村弘子・亀崎路子・北口和美・小林央美・下村淳子・西岡かおり・平井美幸・福田博美・松枝睦美・松田芳子・三木とみ子・宮本香代子・面澤和子 監事: 古賀由紀子
(委任状による出席) 赤木光子・新井猛浩・池添志乃・今野洋子・植田誠治・工藤宣子・香田由美・齋藤千景・瀬口久美代・高田恵美子・竹鼻ゆかり・塚原加寿子・津島ひろ江・徳山美智子・岡岡和子・三森寧子・森千鶴・山田浩平・吉田純子
(欠席者) 遠藤伸子・米野吉則・中下富子・濱端美奈子

【審議事項】

- (1) 2021年度事業報告(案)
- (2) 2021年度決算報告(案)
- (3) 2022年度事業計画(案)
- (4) 2022年度予算(案)
- (5) 規程等の改正(案)
 - ・日本養護教諭教育学会「役員旅費規程」の一部改正
- (6) 理事の再任
- (7) 名誉会員の推戴

【報告事項】

- (1) 規程等の改正
 - ・「日本養護教諭教育学会誌 投稿規程」の一部改正
- (2) 2023年度研究助成金研究の選定
- (3) 各委員会の活動
 - ①総務委員会②學術委員会③編集委員会④広報委員会
- (4) 第31回学術集会の開催
- (5) 第32回学術集会の開催地

事務局長からのお知らせ

広報担当常任理事 塚原加寿子
総務担当理事・事務局長 加藤晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

●学会HPにマイページを開設しました!!

昨年12月9日に、HPに「マイページ (WEB会員管理システム)」を開設いたしました。

マイページでは、「ご自身の会員登録情報の確認と更新」と「会費納入状況の確認」ができます。会員の皆様におかれましては、次の作業をお願いいたします。

- 1) ご利用の開始前に、パスワードの再設定が必要です。下記URLで「会員番号」及び「登録のメールアドレス」を入力し、再設定の手続きをお願いいたします。

◇パスワード再設定 URL

https://iap-jp.org/jayte/mypage/password_reset/

- 2) すでに、入会時にご登録いただいた情報が入力されています。正しいかどうかをご確認いただき、修正・変更があれば速やかにご入力をお願いいたします。

◇マイページ URL

<https://iap-jp.org/jayte/mypage/login/login>

ただし、会員名や会員種別等はご自身では変更できない項目となっています。これらの変更がございました場合は東京の事務所までメールにてご連絡ください (会員情報の変更に関しては、記録の都合上お電話では受け付けておりませんのでご理解の程をお願いいたします)。

●メール登録をお願いします!!

ご登録がお済みでない方は、右のQRコードからも入力できます。



●ご不明な点がございましたら、

本ハーモニの表紙にあります事務局までご連絡ください。なお、皆様の会員番号は発送時の宛名シールに記載されています。

編集後記

本号はハーモニ第90号と記念すべき紙面となりました。第90号の編集期間中、学会設立30周年記念誌に掲載予定の「ハーモニの歩み」を執筆するため、すべての紙面を読み返しました。お世話になった大学時代の恩師、大学院時代の恩師も登場しており、驚きと共に懐かしく思いました。また、養護教諭を目指したスタート時点から、本学会と関わりのある先生方に基礎基本を学び、今はこのハーモニの編集に携わっていることを誇りに思いました。

学会ホームページでは1992年発行のハーモニ第1号から全紙面を読むことができますので、お時間のある時にぜひご覧ください。これからも、今から明日に向かう養護教諭にかかわる情報をハーモニから発信し、学ぶことを楽しみに活動していきたいと思えます。

(西岡かおり、山本訓子)

